



令和5年度 製品・サービスの カーボンフットプリントに係るモデル事業

事業概要

2023年7月7日

環境省地球環境局地球温暖化対策課
脱炭素ビジネス推進室

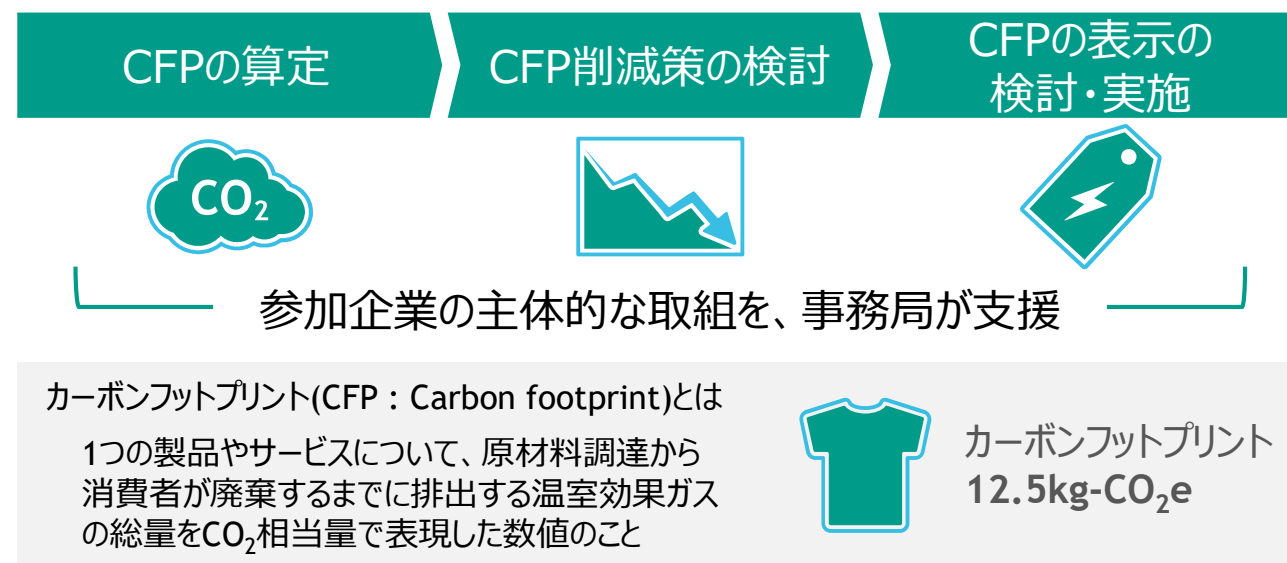


■製品・サービスのカーボンフットプリント（CFP）の算定、削減、表示に係る参加企業の主体的な取組を支援し、CFPの知見を得てもらうとともに、排出削減の取組とビジネス成長を両立させる先進的なロールモデルを創出する

背景と目的

- 「国民が脱炭素に貢献する製品・サービスを選択できる社会」を実現するためには、購買活動における気候変動影響が、CFPを通じて消費者に「見える化」される必要
- 一方で、CFPの算定等を行う難易度や業務負担が課題となり、取組を躊躇する企業も少なくないところ
- 本モデル事業は、今後B2Cの製品・サービスを中心に、比較的簡易な算定¹によるCFPの取組を社会全体に普及させるため、先進的なロールモデル創出を目指すもの

モデル事業の全体の流れ



1. ここでいう「比較的簡易な算定」とは、「カーボンフットプリントガイドライン（別冊）CFP実践ガイド（2023年5月、経済産業省・環境省）」に則り、他社製品・サービスとの比較を前提としない算定をいう。 (<https://www.env.go.jp/content/000136177.pdf>)

対象製品・サービスのイメージ及び対象企業（応募パターン）

- 消費者の行動変容に直接かかわることが可能な製品またはサービスが対象
- 企業の業態に応じ、2つのパターンから選択して応募

対象製品・サービス

※ 記載はイメージのため、対象はこの限りではない

製品

サービス

<p>文房具</p> <p>かばん</p> <p>おにぎり</p> <p>エコバッグ</p> <p>傘</p>	<p>おもちゃ</p> <p>家具</p> <p>化粧品</p>	<p>シェアリングサービス</p> <p>宅配便・デリバリー</p> <p>クリーニング</p> <p>イベント</p>	<p>サブスクリプションサービス</p> <p>ソフトウェア</p> <p>シェアスペース</p> <p>Eコマース</p> <p>宿泊ツアー</p> <p>外食</p>
---	----------------------------------	--	---



対象企業（応募パターン）

メーカー・サービス業が単独で応募

- 消費者が直接目にする製品やサービスを製造・提供する企業



メーカー等とパートナー企業（取引先を想定）が共同で応募

- 左記の企業を含め、複数の企業が連携（申請者は左記の企業）



【例①】製品の共同応募の例

- 家具ブランドとOEMメーカー

【例②】サービスの共同応募の例

- 旅行会社とホテル

(参考) 昨年度実施したCFPに係るモデル事業の概要



■昨年度のモデル事業では4社を選定し、対象製品に係るCFPの算定等を実施



TOKYO YOSHIOKA

健康にアイデアを
meiji



UNITED ARROWS LTD.

株式会社コーセー

東京吉岡株式会社

明治ホールディングス株式会社

株式会社ユナイテッドアローズ

対象製品
・サービス



雪肌精 クリアウェルネスピュア コンク SS



循環型リサイクルポリエチレン袋



明治ミルクチョコレート50g



グリーンレーベル リラクシング
「クルーネック半袖カットソー」

対象企業
(応募パターン)

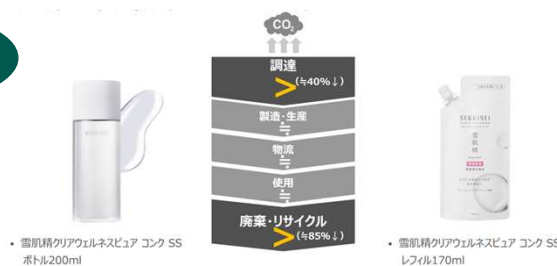
単独

単独

単独

複数企業で連携
(応募時は単独だったが、
複数企業で連携して算定)

実績
(一例)



レフィル容器はボトル容器に比して、
調達と廃棄・リサイクル段階において
CO₂排出量に優位性が認められた



東京ビッグサイトでの展示
また、WEBサイト、展示会
などで販促広報も展開



チョコレートのCO₂排出のホットスポット
(多くCO₂を排出するプロセス) を定量化し、
社内のCO₂削減策を数値に基づき
強力に推進することが可能に



店頭POP等により、
Carbon Neutralityに向けた
活動として取組を発信

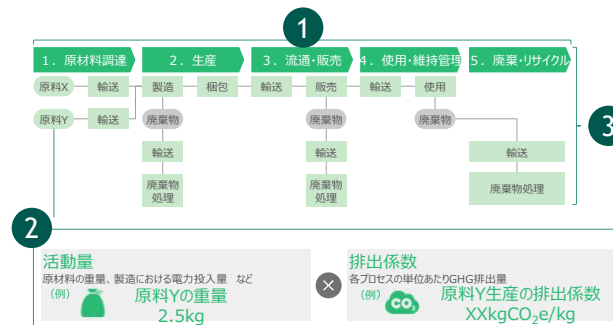
モデル事業で取り組む具体的な内容

■参加企業は、事務局からの支援を受けながら、製品・サービスのCFPの算定、CFPの削減計画の検討、CFPの表示の検討・実施に主体的に取り組むことで、一連のノウハウや成果物を獲得することが可能

モデル企業

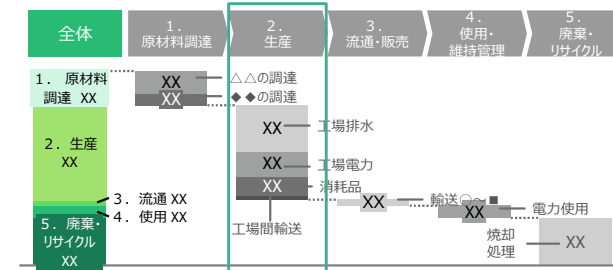
CFPの算定

- 1 対象の製品・サービスについて、原材料調達から廃棄・リサイクルまでの全ての過程をプロセスに分解
- 2 各プロセスの「活動量」と「排出係数」を用いて温室効果ガス(GHG)排出量を計算
- 3 各プロセスのGHG排出量を合計し、CFPを算定



CFP削減策の検討

- CFPを算定した製品・サービスについて、排出削減目標と削減対策を検討
 - 算定を通じて明確になった排出量が多いプロセスに係る対策を特に検討



CFPの表示の検討・実施

- 算定したCFPや、削減目標・削減対策を消費者に伝えるための表示等に係る方策を検討し、実施 (マーケティングやブランディングでの活用含む)



伴走支援

- CFPの算定/削減/表示の取組方法の解説
 - 悩みに対するアドバイス
 - 検討の進め方や検討すべき内容
 - 経営陣との議論を通じた方向性の明確化
- 等

事務局

注: 実際の進め方は、各社の検討状況や支援ニーズに応じて決定。

なお、CFP算定に必要な排出係数データベースはIDEA Ver.3 日本版 (国立研究開発法人産業技術総合研究所安全科学研究部門) が利用できる環境を提供。その他のデータベースの利用を希望する場合は、参加企業での購入などが必要。

モデル事業に取り組む上での留意事項

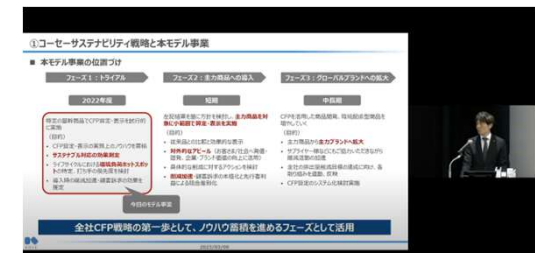
■CFPのロールモデルを創出するという観点から、モデル企業において主体的な取組を実施するための体制構築や、環境省等による発信に対する積極的な協力が求められる

モデル企業における
主体的取組の実施
に向けた体制構築

- 実務責任者を明確にすること
- 関連部署などの協力体制を確保すること
 - 製品・サービスに係る全プロセスの把握が必要となるため、関連部署のヒアリング・データ提供体制が必要
- 経営層のコミットメントを担保すること
 - 上記のような部門を横断する取組を円滑に推進するため、経営層のコミットメントが必要

環境省/政府の
発信に対する
積極的な協力

- 環境省/政府が事業に関して発信・発表することに対し、積極的に協力すること
(発表内容は、企業の秘匿性などに配慮し相談)
 - CFPガイドライン¹等
 - 合同報告会【非公開】：モデル事業参加企業のみが集まり、成果を学び合う
 - 脱炭素経営フォーラム²（仮称）【公開】：モデル事業の取組等を発表する

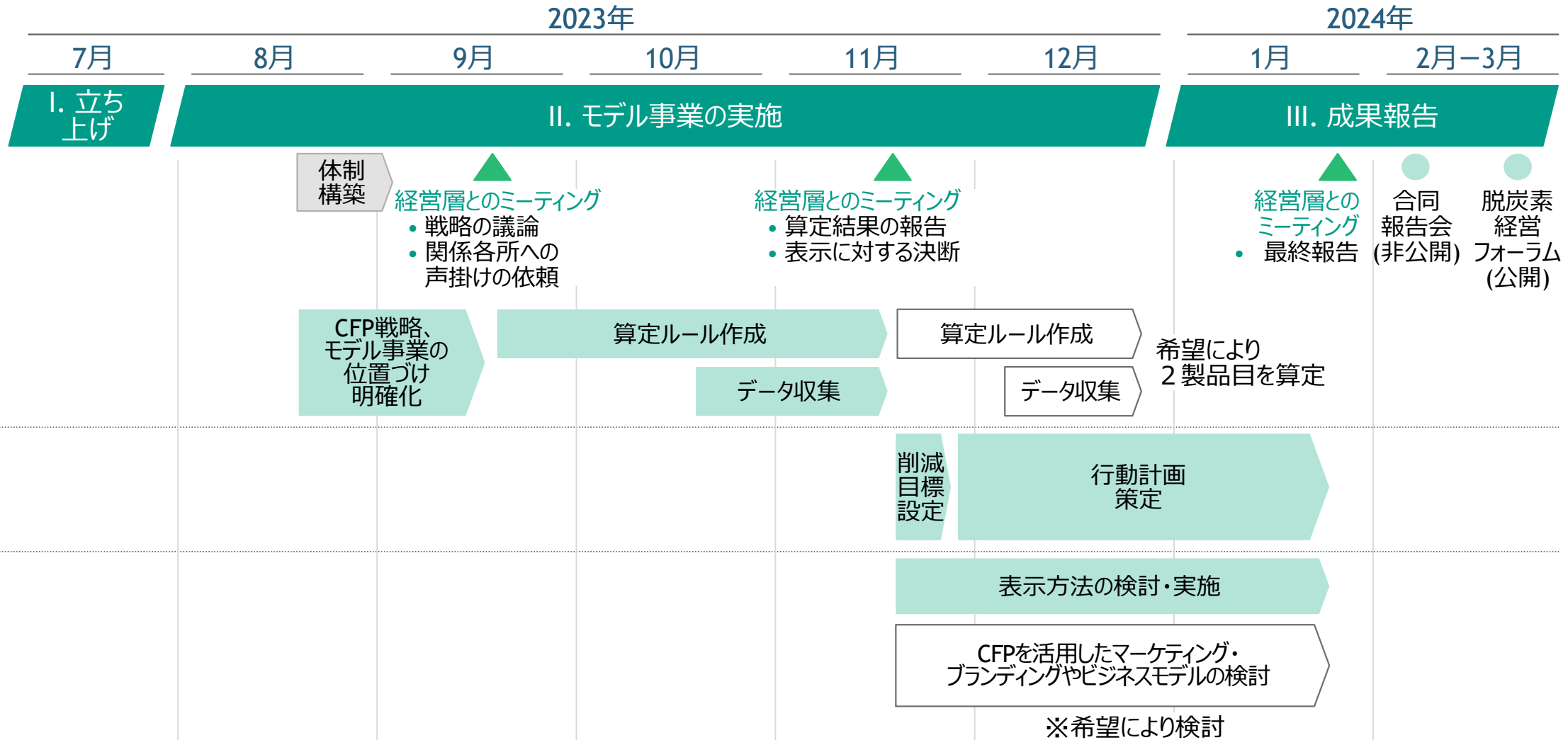


脱炭素経営フォーラム(2022年度)の登壇の様子

1. CFPガイドライン（経済産業省、環境省）：<https://www.env.go.jp/content/000124385.pdf> 2. 脱炭素経営フォーラム（2022年版）その3 <https://www.youtube.com/watch?v=UCai0yn6Zjk>

モデル事業の実施スケジュールのイメージ

■約6カ月間にわたり対象企業のCFPの算定・削減計画の検討・消費者への表示に取り組む



注: 実際の進め方は、各社の検討状況や支援ニーズに応じて決定。

参加企業向けに、事務局による解説セッションを実施 (2週間に1回程度を想定)

合同講義（解説セッション）のスケジュール

■2週間に1回程度の頻度で以下のとおり実施予定のため、参加企業には予定の確保をお願いしたいところ

日付	時間	場所	日付	時間	場所
① 8/21 (月)	13:00 - 14:30	東京日本橋 or オンライン	⑥ 10/30 (月)	13:00 - 14:30	東京日本橋 or オンライン
② 9/4 (月)	13:00 - 14:30		⑦ 11/13 (月)	13:00 - 14:30	
③ 9/19 (火)	13:00 - 14:30		⑧ 11/27 (月)	13:00 - 14:30	
④ 10/2 (月)	13:00 - 14:30		⑨ 12/11 (月)	13:00 - 14:30	
⑤ 10/16 (月)	13:00 - 14:30		※1月以降の日程については事業開始以降にご連絡		

参加企業の採択において考慮する主な観点

■製品・サービスのCFPの算定・表示・活用に取り組むモデル企業を創出するという趣旨に鑑み、下記の観点及び業態や企業規模等を総合考慮して、採択する企業を決定する（採択にあたっては、必要に応じてヒアリング等を実施する可能性がある）

要件の区分

基準の概要

必須要件

- ① CFP算定に取り組む製品・サービスが決まっている
- ② 経営層の関与を含め、モデル事業遂行に必要なリソースを確保している
- ③ 本モデル事業での取組内容についての発信に積極的に協力できる

加点要件

- ④ CFP算定結果表示に向けた具体的な検討が可能である（自社ブランドやイベントでの展示、等）
- ⑤ 自社戦略におけるCFPの位置づけが明確である
- ⑥ 国民の使用頻度が高い等、対象とする製品・サービスの社会的インパクトが大きい
- ⑦ 消費者の行動変容への影響力が大きい

(参考) 「他社製品との比較を想定しない自社ルールによる算定」について

■本事業では、カーボンフットプリントガイドライン（経済産業省・環境省）を参照し、他社製品との比較を目的としない、自社ルールによる比較的簡易な取組を実施

カーボンフットプリントガイドライン（経済産業省・環境省）【抜粋】

CFPの算定を実施する際は、どのような目的で、誰に向けたCFPを算定するのかを明確にしなければならない。またその上で、その用途を踏まえ、どの程度の客観性や正確性を狙ったCFP算定とするか、判断しなければならない。

本指針では、CFP情報の利用者から求められる客観性に応じて、CFPの算定で満たすべき要件を以下の2段階で整理している。

基礎要件

全てのCFP算定で満たすべき基礎的な要件

比較されることが想定される場合

他社製品と比較されることが想定されるCFPの算定で、上記に追加して満たすべき最低要件※

※「比較されることが想定される場合」で算定する場合においても、基礎要件で定められている要件は満たす必要がある

2段階の要件それぞれの活用シーンの例を、右記にて例示している。

ただし、これらはあくまでも例示であり、2段階の要件のどちらを選択すべきかは、算定者が自らが置かれた環境に応じて判断しなければならない。

参考：想定されるシーンの例

満たすべき要件

本モデル事業におけるCFP算定 (他社製品との比較を想定しない自社ルールによる算定)

基礎要件

- 自社のサプライチェーン全体の排出量の把握、排出源の多いプロセスの分析
- 自社製品の排出量の削減計画の策定、削減推移の測定
- サプライヤに対する排出削減の協力要請
- 金融市場・評価機関等からのScope3排出量に対する開示要求への対応
- 自主的なCFPによる企業/製品ブランディング



比較されることが 想定される場合

- CFPを活用した公共調達
- CFPに基づく規制等
- 顧客企業におけるグリーン調達行動での要件化

■昨年度の本モデル事業の内容等は、以下で知ることができる

CFPガイドライン (別冊)
CFP実践ガイド

脱炭素経営フォーラム (動画)



時間	プログラム
13:30-13:35	開会の挨拶 山田美樹環境副大臣
13:35-13:45	BCGによる動向ご紹介
13:45-14:35	セッション① サプライチェーン全体での脱炭素化に向けての企業間連携 株式会社ワールド カルビー株式会社 高砂香料工業株式会社 ソフトバンク株式会社
14:35-15:45	セッション② 各地域における中小企業の脱炭素化に向けて 加藤軽金属工業株式会社 株式会社NTC 八洲建設株式会社 株式会社スタンダード運輸 株式会社パブリック 株式会社おぎぞ
15:45-15:55	休憩 (中小規模事業者向けの脱炭素経営 導入動画放映)
15:55-16:45	セッション③ CFP算定と脱炭素化への今後の活用の方向性 株式会社ユナイテッドアローズ 株式会社コーセー 東京吉岡株式会社 明治ホールディングス株式会社
16:45-16:50	経済産業省による施策紹介
16:50-16:55	農林水産省による施策紹介
16:55-17:00	閉会の挨拶



セッション③
CFP算定と脱炭素化への今後の活用の方向性

プログラム	登壇者
自社の取り組みにとどまらない消費者・サプライヤーにご協力いただくCFPの取り組み	株式会社ユナイテッドアローズ 経営戦略本部 サステナビリティ推進部 部長 玉井 菜緒
カーボンフットプリント算定による気づき、今後の展開「雪肌精 クリアウエルネス シリーズ」	株式会社コーセー 経営企画部 サステナビリティ戦略室 室長 河野 斉治
CFPの数字がビジネスにもたらすインパクト - 循環型リサイクルポリエチレン袋 -	東京吉岡株式会社 代表取締役常務 高岡 勝宏
CFP算定による削減施策検討の優先順位の明確化「明治ミルクチョコレート50g」	明治ホールディングス株式会社 執行役員 サステナビリティ推進部 部長 松岡 伸次
ファシリテーター	ポストン コンサルティング グループ 伊原 彩乃

カーボンフットプリント ガイドライン
(別冊) CFP 実践ガイド

2023年5月

経済産業省、環境省

URL: <https://www.youtube.com/watch?v=UCai0yn6Zjk>

URL: https://www.meti.go.jp/shingikai/energy_environment/carbon_footprint/pdf/20230526_4.pdf

